

まち さん ぽ
街散歩

飯田橋

三区三様の顔に出会う

飯田橋

千代田、新宿、文京の三区が接する飯田橋。JR線をはじめ、4本の地下鉄、首都高快速道と、交通便利性に恵まれているにもかかわらず、なぜか都会らしくない街という印象を受ける。また、緑が多いという共通項以外は、三区三様の顔を持つ。そんな不思議な街・飯田橋を訪ねてみた。

江戸川アパート

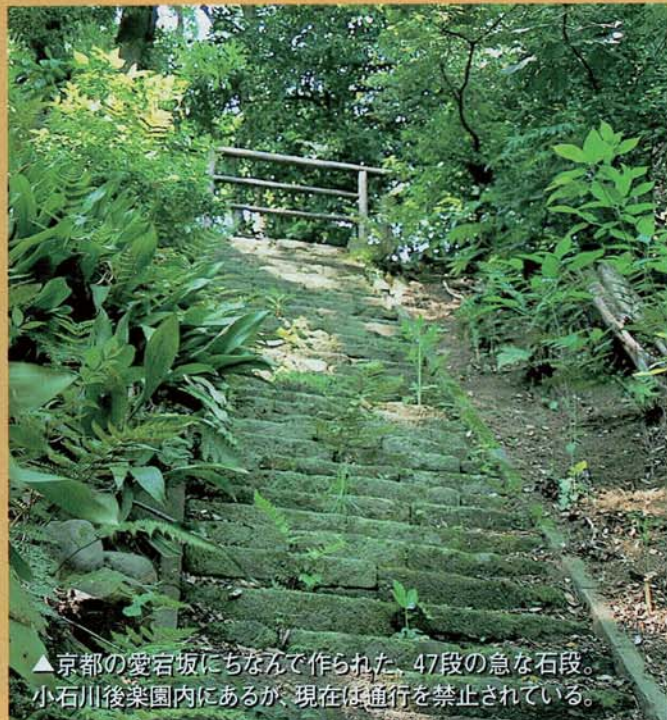
▲1934(昭和9)年に竣工した、同潤会江戸川アパート。“同潤会の最高傑作”と言われ、鬱蒼とした緑が特徴的。多くの文化人が住んだことでも知られるが、昨年夏再開発が決定し、近く取り壊されるという。



小石川後楽園 内庭

▲1629(寛永6)年、水戸徳川家の初代頼房が中屋敷として建立し、二代藩主光圀(水戸黄門)の時に完成した小石川後楽園。明の儒学者、朱舜水の設計による回遊式築山泉水庭園で、随所に中国の名所の名前をつけた景観が配されている。内庭は、水戸藩の書院があった所。

小石川後楽園 愛宕坂



▲京都の愛宕坂にちなんで作られた、47段の急な石段。小石川後楽園内にあるが、現在は通行を禁止されている。



善國寺

◀ “神楽坂の毘沙門天”として、江戸時代から信仰を集めた善國寺。創建当時は麴町にあったが、1793(寛政5)年、ここに移転してきた。神楽坂一帯は、明治から昭和の初め頃にかけて、「山の手銀座」と呼ばれるほどの賑わいを見せた。夜店の発祥地でもある。



牛込見附跡

◀ 江戸城三十六見附の一つで、田安台(現在の北の丸公園辺り)から牛込方面に出る門で「牛込口」とも呼ばれた。見附門は撤去されたが、今も石垣の台が残されている。

アイガーデンエア

◀ JR貨物の旧飯田町駅跡地一帯を、再開発して造られた街。大手企業の本社ビル、高層マンション、商業施設、ホテルなどが建ち並ぶ。飯田橋の新しいランドマークである。

飯田橋駅を出て、最初に向かったのが「小石川後樂園」。昔の後樂園球場や現在の東京ドームにはよく足を運んだが、隣に庭園があることは知らなかった。約2万坪の広さをもつ園内は、休日ということもあり、多くの人で賑わっている。新緑の緑と、日光を反射する池の水が目眩しい。緑の向こうには、東京ドームの白い屋根や、一時その高さで物議を醸した文京区役所が見える。改めて、ここは都会のど真ん中であることを認識させられる。

人の多さに少し嫌気がさし、後樂園を後にする。高速道路の下をくぐり、新宿区へ。神楽坂方面に向かう途中、とても古びた建物を見つけた。「同潤会江戸川アパート」だ。周囲には、工事用の塀が張り巡らされている。確か、もうすぐ取り壊されるはずだった。私が写真を撮っていると、「わざわざ撮りに来られたんですか」という声。振り向くと、自転車に乗った女性が立っている。取り壊される前のアパートを、どうしても見たかったのだという。よく見れば、他にも同じような人たちがいる。人々とともに、激動の時代を見つめ続けたこの建物に、妙な懐かしさを覚えた。

後ろ髪引かれる思いでアパートを後にし、いよいよ神楽坂へ。坂上には、朱色の門がひときわ目を引く「善國寺」がある。表通りを少し反れると、迷路のような細い路地が続き、板塀と黒塀に囲まれた石畳の道が現れる。表通りの喧騒とかけ離れた静けさが心地いい。

神楽坂に戻り、急な坂道を下ると、外濠にかかる牛込橋に出る。橋からは、穏やかな外濠の景色が眺められる。しばし休憩。そして千代田区へ。鶯のからまる「牛込見附跡」の石垣を横目に見ながら線路沿いに歩くと、「いいだべえ」が見えてくる。殺風景な線路の壁を、カラフルな鯨たちが泳ぎ、なんとも微笑ましい。

目白通りを渡り、そのまま線路沿いに歩くと目の前に高層ビル群が現れる。今年3月にグランドオープンした「アイガーデンエア」だ。貨物線の旧飯田町駅跡地に造られた新しい街で、敷地内には、実際に使用されていた線路が敷かれている。夜には、商業施設と共にライトアップされ、さながら、銀河鉄道のような雰囲気を出すといい。また、月の満ち欠けを見るのに最適な日時を刻んだ遊歩道など、街全体にちょっとしたお遊びがあるのが面白い。せっかくだから、このまま夜まで待つとしようか――。

参考文献:『江戸・東京 歴史の散歩道2』(街とくら社)、『東京人 no. 184』(都市出版株)



石畳小路

◀ いわゆる神楽坂の“料亭街”。神楽坂を一步入った路地や横丁には、石段や石畳の道と板塀や黒塀に囲まれた料亭が、ひっそりとたたずんでいる。



いいだべえ

▲ JR飯田橋駅の線路の壁に描かれた鯨たち。壁の絵は、武蔵野美大の学生たちが考案し、名前は全国的な公募で選ばれたもので、「あかんべえ」と「いいだべし」の語呂合わせになっている。

遊歩道のベンチ



◀ 飯田町の土地区画整理事業によって整備された、日本橋川の遊歩道。遊歩道のベンチは、江戸時代にこの辺りにあった讚岐高松藩上屋敷の土蔵跡の礎石が再利用されている。